

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4170100699		
法人名	社会福祉法人 佐賀キリスト教事業団		
事業所名	グループホーム シオンの園 くつろ樹		
所在地	佐賀県佐賀市大和町大字久留間3865-1		
自己評価作成日	令和 元年 10月 20日	評価結果市町村受理日	令和2年2月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号
訪問調査日	令和 元年 11月 13日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

母体施設の経営理念、処遇モットーを軸として、くつろ樹では「家庭的な環境の下で地域住民の方々との交流を図る機会を持ちながら、ご利用者様お一人おひとりが個人の個性や力を大切にしながら、自分らしく当たり前の暮らしを続けられる場所であるよう努力します」を基本方針として掲げています。また、常に笑顔で接し、ご利用者様やご家族様のご自身の思いや要望等を伝えやすく、安心して楽しい生活を送って頂けるよう、ご利用者様の意思及び人格を尊重し、常にご利用者様の立場に立った支援を目標に努力しているところです。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は佐賀市の北西部に位置しており、周囲を果樹園に囲まれた閑静な丘陵地にある。近くには古墳があり、高速のインターチェンジもあり交通の利便性も高い。事業所には母体がありそこから理念を引き継ぎ毎年計画を立てて実践されている。「私達は皆家族」の理念の元、入居者・職員ともに隔たりなく明るく本当の家族の様に会話が出来る生活できる体制が整えられている。事業所には「動き」や「色」があり、常に楽しそうな雰囲気の中で自然に「笑顔」が出るような、そんな事業所である。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月のくつろ樹部会開催時、経営理念、処遇モットーを全員で唱和し実践することを確認し合っている。事業所の基本方針は年度始めの事業計画書で確認をしている。	理念は、母体の「経営理念」「処遇モットー」を受け継ぎ新人からベテラン職員まで共有が出来る体制になっている。事務所に掲げられており、いつでも振り返る事が出来る体制になっている。また、年度末には来年度の計画を立案されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会、老人会、婦人会の方々の協力を得て「シオンの園秋祭り」を開催しており、くつろ樹のご利用者様も参加することにより、地域の方々との交流の場を設けている。	季節毎に多彩なイベントを企画されていて、地域の方々に参加を呼びかけ来て頂いている。また、ボランティアの方の参加もあり、地域の中での交流がなされている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域福祉部の職員により「みかん倶楽部」と称し地域の公民館に出向き、事業所の紹介や健康体操等の紹介を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催中。行事報告、予定、利用者様や職員の動向等を報告し、ご家族、民生委員様のご意見や質問について話し合い、サービスの向上に活かす努力をしている。また、今年度より他事業所見学を取り入れている。	会議での内容は回覧したり、面会時に随時内容を提供している。また、企画したイベント等で地域との交流もなされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議において情報交換を行うことで協力関係を築いている。	会議等で意見を出し合い、そこで連携が取れている。母体から地域包括支援センター職員が派遣されており、何かあればいつでも相談できる体制が整えられている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者及び全ての職員が身体拘束について正しい理解ができるよう、園内研修会等を開催しており正しい理解のもと身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	研修会において、知識や理解が深められる様体制が整えられている。研修会に参加出来ない職員についても回覧等で情報の共有がなされている。言葉にも抑制の意味があるので、職員間でお互いに注意を促している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	4月に部署内での勉強会を実施し、自己の振り返りを行いながら、常に意識を持って日々の業務を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年度9月、園内研修において「リスクマネジメントと併せ「権利擁護」についての講義を受け、出席できなかった職員には資料を回覧し知識の向上に繋げている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には利用契約書、重要事項の十分な説明を行い、また、退居時にも話し合いの場を設け、ご理解、ご納得いただけるよう対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2ヶ月に1回の運営推進会議やカンファレンス会議に参加していただき、ご意見を尋ねる機会を設けている。	ケアプランの見直し時期に家族へ意見を伺う体制が整えられている。また、アンケートを実施し、意見を一覧表にまとめ反映できる様に体制が整えられている。メールでのやり取りもある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の部会等での意見、提案を基に上申している。	新人からベテラン職員まで活発な意見が出て、その意見は直接上司迄伝わる体制があり、改善点はすぐに対応できる体制が整えられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回の人事考課及び福利厚生にも力を入れていただいている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修計画に基づき、職員の研修参加の機会を設け、知識、技術の向上に努めている。現状では法人外への研修参加は難しい状況のため、園内研修にできるだけ参加するよう促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度は法人外への研修参加ができていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	担当者より相談から利用に至るまで、施設内の見学や面談を通じ、本人様が安心してご利用いただけるよう努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	担当者より相談から利用に至るまで、施設内の見学や面談を通じ、本人様が安心してご利用いただけるよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当ケアマネにて十分に配慮されている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の注ぎ分けや後片付け、洗濯物干しや洗濯物畳み、掃除等の家事を一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時やカンファレンス会議、運営推進会議等を通じ、より良い信頼関係を築く努力をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	年賀状や暑中見舞いのはがきを書いていたいたり、馴染みの方々の面会時にはゆっくりと過ごしていただけるよう配慮している。	母体から旧知の友達が訪問できる体制があり、いつでも交流が図れる。また、昔話をする事で、昔を振り返る事が出来るよう配慮されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の関係を職員全員が共有し、ご利用者お一人おひとりの個性を大切にしながら、トラブルになる前の早目の対応を心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	法人全体の中での取組みを行なっている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	カンファレンス会議や日々の生活の中で、常に本人様の希望や要望を聞き出すよう努力している。また、いつでも利用者様主体であることを忘れずに取り組んでいる。	入居者からは意見はよく出ていて、その希望に沿った支援がなされている。食事に対しても出来るだけ希望に沿う形をとり、希望が叶った後の入居者からの反応が良いので、今後も続けていく方針である。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメントやカンファレンス会議、日常の会話、面会時の会話を通じ、生活歴や今までの経過を把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の現状を把握できるよう、毎月の部会等で話し合いを行っており、また、急な変化についても連絡ノート等により職員間の連絡を密に取り、現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月毎にモニタリングを行い、半年に1度は、ご家族、ご利用者様に同席して頂き、意見や要望等を反映した計画作成に努めている。	計画や実施記録等、全て職員の間で回覧されており、情報の共有がなされている。計画に対し職員・入居者が一体となり取組む体制がとられている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活状況は個別のケース記録に記入。また、毎月の部会においてもケアプランの実施状況等を協議しながら実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	随時、本人様やご家族の要望に応じ、対応できる事であれば、臨機応変に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアや自治体等の協力を得て、秋祭りの開催を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にご家族の希望があれば、協力医へ主治医を変更しているが、以前からの主治医を希望される利用者様に関しては、ご家族を通じ、密に情報交換を行うよう努めている。	医師との連携はとれており、他科受診についても受診できる体制が整えられている。家族・職員・病院等の間で、情報の共有がきちんと図られている。緊急時には、直接医師とやり取りが出来るようになっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	専従の看護師にて健康管理を行い、急な対応に関しては、法人の医務看護課職員の協力を得ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際は定期的に病状伺いを行い、担当医、担当看護師、ご家族との情報交換を行いながら、早期退院に向けての話し合いの場をもうけていただいている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合における指針及び看取りに関する指針を定めており、ご家族と話し合いを行いながら方針を共有し、協力医療機関と共に支援していく体制づくりに努めている。	看取りについては契約時に説明を家族にしている。また、入居者の体の状態に応じて、病院・家族と連携しあいながら、今後の方針を決める事が出来る体制が整えられている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルに沿って対応できるよう周知徹底を行っており、その場での実践に備える努力をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災自動通報装置、消火器、スプリンクラーを設置。また、年間消防計画を作成し、昼間、夜間帯での定期的な消防訓練を実施している。今年度、地域の消防団と共に消防避難訓練を実施する予定。	年間2回実施していて、内1回は夜間を想定した訓練がなされている。地域からの支援体制も整っており、連絡網の中にも地域の方の連絡先が記入されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修会、勉強会を通じ、常に個人の尊重を重視した対応を心掛けている。	個々の入居者に対し、臨機応変に対応できる体制が整えられている。排泄時には他入居者に悟られぬ様、支援がなされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個人の意思を尊重し自己決定の存続が図れるような対応を心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様主体の生活を心掛け、利用者様の希望に添った支援となるよう柔軟な対応を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装や化粧など本人様の意思を尊重しながら対応している。定期的に理髪サービスを実施。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前のおかずの注ぎ分けや配膳準備、食後の後片付けなどを依頼し職員と共に取り組まれている。	食事の準備から後片付けまで出来る入居者は職員とともに実施している。とても楽しそうに食事を食べられ、イベント時には家族とともに食事をとる事も出来る。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人に合わせた食事形態や量を準備している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自力で行える利用者様には言葉掛けを行い、介助が必要な方には個人に応じた対応を心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時の排泄案内や行動を察知しての排泄案内を行い、また、自立の利用者に関してもトイレ内の確認を行うことで、利用者様の排泄状況を排泄表により把握しながら、その時々状況に応じた支援を行っている。	入居者の些細な行動から排泄のサインを読み取り、排泄支援に繋げている。殆どの方はトイレ誘導となっていて、職員が時間を見計らいながら支援がなされている。排尿後の清拭も実施されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、乳製品のおやつを取り入れ、また、運動参加の働きかけをおこない、できる限り自然排便となるよう取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日入浴は実施できる状態。現在は午後の入浴を実施しているが、その時々利用者様の状況や希望に添った対応に心掛けている。	職員や入居者の負担を少しでも軽減できるように、リフトが設置されている。入浴時も2人介助で実施され安全面にも配慮がなされている。また、希望に沿った入浴も可能である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠状態や日中の様子等、状態把握を行い、ソファに寛いでいただいたり、場合によっては自室での静養を進めるなどの対応を行っている。また、できるだけ日中の活性化を図りながら安眠に繋がるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服の説明書は、いつでも閲覧できる状態。内服薬変更時の利用者様の症状の変化については、主治医やご家族への情報提供に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で、役割を持っていただける支援や、遣り甲斐や喜びを感じていただけるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	個々の希望に添って外出できるよう努めたがい、現状では難しく、どうしても団体行動になっている。	季節毎のイベントで外出支援がなされている。入居者の体調や希望にあわせて支援が提供されている。ボランティアを活用して外出支援もされている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ひとり一人の希望や力に応じて、お金を所持し使えるように対応しているが、現在は利用者様個人で保管されている方はおられない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けたいときはその都度対応しており、はがきや手紙が届いた時は返事を書いていただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	採光は、季節やその日の天候によって障子の開け閉め等の配慮を行っている。室内温度、湿度については、1日3回のチェックを行い、快適に過ごして頂けるよう配慮している。	中庭には季節の花がプランターに飾られている。台所もオープンキッチンで調理されている風景が伺え、匂いが漂い、家庭的な雰囲気が味わえるような空間づくりになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	広間テーブルや周辺のソファ、台所側の寛ぎスペース、暖かい日にはウッドデッキなど、お好きな場所で思い思いに過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には使い慣れた物品や好みの身の回りの品の持ち込みについて説明を行い、ご家族で準備をしていただいている。	馴染みの家具や写真等が設置されていて、その配置にも家族と協議を重ねながら、入居者が生活し易い様に工夫が施されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々に応じた対応を心掛け、安全かつ自立した生活が送れるよう努力している。		